

サダコ鶴の寄贈にあたって

この度は、残り少ない貴重なサダコ鶴をご寄贈いただくことが正式に決定し、特定非営利活動法人サダコレガシーの佐々木雅弘代表をはじめ、関係者の皆様に深く感謝を申し上げます。

皆様ご承知のとおり、去る大戦において、沖縄は、国内で唯一、住民を巻き込んだ地上戦により、県民の4人に1人が命を失いました。そして、広島県や長崎県では、人類史上初めての原子爆弾が投下され、多くの尊い命が犠牲になりました。

戦争は、尊い命を奪い、人間の尊厳を踏みにじり、人間が人間でなくなる、最も悲しく、そして、あってはならない行為です。

現在、沖縄市では、第二次世界大戦の教訓を踏まえ、すべての人が等しく平和で豊かな生活がおくれるまちづくりを進めるために、沖縄戦の降伏調印式が行われた9月7日を「沖縄市民平和の日」と定め、企画展や記念行事など様々な平和事業を展開しております。

その一つが、沖縄市平和大使派遣事業であり、去年は平和大使として広島県へ派遣された本市の中学生が、特定非営利活動法人サダコレガシーの佐々木雅弘代表の朗読劇を鑑賞させていただきました。この出会いをきっかけに、貴重なサダコ鶴を寄贈していただくことになり、感謝の気持ちでいっぱいでございます。

佐々木代表の実の妹である佐々木禎子さんは、原爆の影響により、重い病気を患いながらも、病床において折鶴一枚一枚に、生きる希望を込め、精魂込めて折り続けたと伺っております。

辛い境遇にありながらも、周りを気遣い、深い思いやりの心を持って生きた禎子さんの折鶴には、今を生きる私たちへの大切なメッセージが込められているような気が致します。平和の大切さや命の尊さ、周りへの思いやりや1日1日を一生懸命に生きる喜び、私たちが絶対に忘れてはならない大切なことではないでしょうか。

沖縄市では、ご寄贈いただきます貴重なサダコ鶴を、「世界平和を願い、命を尊ぶ」佐々木禎子さんからのメッセージとして、多くの市民の目に触れる市役所1階に常設展示する予定でございます。

佐々木禎子さんが生きた証である折鶴が結んでくれた縁を大切に、この小さな島から、平和の尊さを発信して参りたいと思います。

この度の佐々木代表のご厚意に心より感謝を申し上げますとともに、寄贈にあたり、サダコ鶴を返還されます広島市のお心遣いに厚くお礼を申し上げます。

平成 25 年 7 月 12 日

沖縄市長 東 門 美津子

